Laws on Changes of Government between the Political Parties in the Canadian and Australian Federations : 1980 to 2008

Nobuaki Suyama
Teikyo Heisei University

Abstract

This article aims to verify Robert MacGregor Dawson's old hypotheses that a political party wins a number of provincial/state elections while it is in opposition at the federal level, finally culminating in a federal win, and then that it starts to lose provincial/state elections to another party, and that the cycle starts all over again, for the two long-established federations of Canada and Australia. The data of the elections (federal and provincial/state) held between 1980 and 2008 are used for this comparative study. The findings support the theories linking federalism with political parties in both cases. The phenomena depicted in Dawson's model are more pronounced and the federal/state division is more clear-cut in Australia, given its staunch two-party system, while the Canadian party system is more loosely organised in a confederal form. The trend has been accentuated Down Under recently, perhaps because, despite the shorter term of mandate in Australian Parliament (3 years), federal parties tend to enjoy a longer period of time in office than in earlier decades. Consequently, by the time of eventual party changes in Canberra, there is ample time for the discontents towards the parties in federal government to turn into the forces to elect different parties especially in the outlying states. In state elections, it is a liability for the parties to have their federal wings governing the entire nation, because their link is capitalised on by the parties who are in opposition in Canberra. A series of electoral victories at the state level gradually prepare for their final prevalence in the national capital.

カナダとオーストラリアの連邦制での政権交代の法則

――1980 年～2008 年――

陶　山　宣　明
帝京平成大学

は　じ　め　に

2007 年 11 月の連邦議会選挙で 11 年 8 ヶ月ぶりに労働党政権が誕生した時に，労働党はキャンベラだけではなく何と 6 州 1 特別地域 1 準州の全てで政権の座にあることが判明した．クインズランドと北部準州も含めて，どこにおいても第一野党は広い意味での自由党となっていた．豪州政党政治の大きな構造として労働党と非労働党勢力の対立があり，連邦レベルで中道右派の自由党が政権を掌握する際には右派の国民党と連立内閣を作るのが通例である．しかし，州レベルではその限りではなく，南オーストラリアでは国民党議員が現労働党政権に入閣しているし，今年から西オーストラリアでは国民党は自らの権益を守れる明確な条件の下で自由党と連立している．

カナダでは 12 年 3 ヶ月も自由党政権が続いた後に，2006 年 2 月に少数派ながらもハーパー保守党政権が誕生したが，その時点で州政府を司る政権政党は中道右派の進歩保守党から概ね中道左派の自由党，左側の新民主党まで様々であった．カナダの方がオーストラリアよりも政党の種類も数も多く，中道左派と位置づけられる自由党も状況に応じて中央に，あるいは，少し右に寄ることが多々有る．また，新民主党を除いて，同じ政党内でも連邦ウィングと州ウィングが緩やかな組織を構成するコンフェデラルな型を取っていて，比較的自由に各ユニットが動くのもカナダの政党の特徴である．

本稿では，二つの連邦制で連邦レベルと州レベルの政権交代に何らかの関係があるのか，調べてみたい．連邦制の政権交代については仮説が既に存在し，29 年間のデータを使ってどこまでその説明の適合性があるかを確かめたい．

仮　　説

民主主義連邦制の選挙民は権力の集中を避けるために意識的に別のレベルで政権にある政

党とは違う党を選ぼうとするバランス理論は，カナダの社会思想家フランク・アンダーヒルによって提唱された[1]．つまり，連邦レベルと州レベルで違う政党が政権の座にあって，チェック＆バランスの原理が働くのが望ましいとするわけである．他方で，勝ち馬に乗ってそのおこぼれにあずかろうとする意識もあることが指摘され，むしろ同じ政党が勝つ率の方が高いとするバンドワゴン理論はアンチテーゼと言える．

この両方をうまく融合して妥当性の高いモデルを提示したのが政治学者ロバート・マクレガー・ドーソンである[2]．連邦レベルの政権政党とは違う政党が州選挙で好成績を収めるのはバランス理論通りだが，連邦・州関係に摩擦がある時に連邦政権政党と同じ名前を冠する政党は責務を負わされることがその理由として挙げられる．そして，州レベルで次々と政権奪取に成功した党は，州の勢力圏を基地にして，最後には本丸を取ってしまう点はバンドワゴン理論に基づいている．

検証 1　カナダの事例

1980 年にトリュドー自由党政権が復帰したがその時点で自由党政権の州は一つもなかったし，84 年に引き継いだターナーがマルローニー進歩保守党に政権を奪われるまで州レベルで自由党政権が誕生することもなかった．野の下ったターナー党首はまず州レベルで自由党の基盤を作り上げようとした．オンタリオ，ケベック[3]，プリンス・エドワード・アイランド，ニュー・ブランズウィックと 4 州で政権奪取したが，連邦レベルでは 88 年マルローニーに返り討ちに会った．90 年にクレチアンがリーダーとして選ばれる前に自由党はニューファンドランドも制したが，その後に最大州オンタリオを新民主党に奪われた．しかし，93 年にクレチアン自由党政権が誕生するまでにノバ・スコシアも手に入れ，オタワ川の東の 5 州は全部自由党となっていた．

仮説が正しいとすると，オタワで政権に就いた 93 年以後に，今度はそれまでに手に入れた州を失っていくはずである．果たして，それは確かに起こっている．プリンス・エドワード・アイランド，ニュー・ブランズウィック，ノバ・スコシア，ケベック，ニューファンドランドの順に州ベースを失って行った．だが，後にケベックをケベック党から奪い返しているのは，連邦制を巡る左右の軸としてよりも，二つの州政党の間にあるケベック独立とカナダ連邦内存続の目標の違いで，州民が後者を選んだと解釈すべきであろう．70 年代後半から 80 年代前半にかけてケベック州民はトリュドーとレベック（ケベック党創立者）を同時

1）Frank H. Underhill, *In Search of Canadian Liberalism,* Macmillan, Toronto, 1960, p. 254.
2）Robert MacGregor Dawson, *The Government of Canada,* 4th ed., University of Toronto Press, Toronto, 1966, pp. 526–530.
3）但し，ケベックの自由党は連邦自由党とは組織を別にしている．

に選んでいたことから分かるように，他の州民以上に連邦と州レベルでの投票パターンが一貫しない傾向が強い．また，オンタリオとブリティッシュ・コロンビアをクレチアン時代に取り戻せたのも法則に反する現象であるが，後者についてはオタワと同じ党だから成功したのでは全くなく，逆に同じ自由党の名称を使用しながらも直接の関係を断ち切ったからこそ党運は好転したのである[4)]．

表 1　1980～2008 年のカナダ連邦・州政権政党の変遷

年	連邦	NFL	PEI	NS	NB	ケベック	オンタリオ	マニトバ	SAS	アルバータ	BC	ユーコン
1980	交代 L	進歩保守	進歩保守	進歩保守	進歩保守	ケベック	進歩保守	進歩保守	新民主	進歩保守	社会信用	進歩保守
1981	自由	進歩保守	進歩保守	進歩保守	進歩保守	ケベック	進歩保守	交代 LL	新民主	進歩保守	社会信用	進歩保守
1982	自由	進歩保守	進歩保守	進歩保守	進歩保守	ケベック	進歩保守	新民主	交代 R	進歩保守	社会信用	進歩保守
1983	自由	進歩保守	進歩保守	進歩保守	進歩保守	ケベック	進歩保守	新民主	進歩保守	進歩保守	社会信用	進歩保守
1984	交代 R	進歩保守	進歩保守	進歩保守	進歩保守	ケベック	進歩保守	新民主	進歩保守	進歩保守	社会信用	進歩保守
1985	進歩保守	進歩保守	進歩保守	進歩保守	進歩保守	交代 C	交代 L	新民主	進歩保守	進歩保守	社会信用	交代 LL
1986	進歩保守	進歩保守	交代 L	進歩保守	進歩保守	自由	自由	新民主	進歩保守	進歩保守	社会信用	新民主
1987	進歩保守	進歩保守	自由	進歩保守	交代 L	自由	自由	新民主	進歩保守	進歩保守	社会信用	新民主
1988	進歩保守	進歩保守	自由	進歩保守	自由	自由	自由	交代 R	進歩保守	進歩保守	社会信用	新民主
1989	進歩保守	交代 L	自由	進歩保守	自由	自由	自由	進歩保守	進歩保守	進歩保守	社会信用	新民主
1990	進歩保守	自由	自由	進歩保守	自由	自由	交代 LL	進歩保守	進歩保守	進歩保守	社会信用	新民主
1991	進歩保守	自由	自由	進歩保守	自由	自由	新民主	進歩保守	交代 LL	進歩保守	交代 LL	新民主
1992	進歩保守	自由	自由	進歩保守	自由	自由	新民主	進歩保守	新民主	進歩保守	新民主	交代 R
1993	交代 L	自由	自由	交代 L	自由	自由	新民主	進歩保守	新民主	進歩保守	新民主	ユーコン
1994	自由	自由	自由	自由	自由	交代 L	新民主	進歩保守	新民主	進歩保守	新民主	ユーコン
1995	自由	自由	自由	自由	自由	ケベック	交代 R	進歩保守	新民主	進歩保守	新民主	ユーコン
1996	自由	自由	交代 R	自由	自由	ケベック	進歩保守	進歩保守	新民主	進歩保守	新民主	交代 LL
1997	自由	自由	進歩保守	自由	自由	ケベック	進歩保守	進歩保守	新民主	進歩保守	新民主	新民主
1998	自由	自由	進歩保守	自由	自由	ケベック	進歩保守	進歩保守	新民主	進歩保守	新民主	新民主
1999	自由	自由	進歩保守	交代 R	交代 R	ケベック	進歩保守	交代 LL	新民主	進歩保守	新民主	新民主
2000	自由	自由	進歩保守	進歩保守	進歩保守	ケベック	進歩保守	新民主	新民主	進歩保守	新民主	交代 L
2001	自由	自由	進歩保守	進歩保守	進歩保守	ケベック	進歩保守	新民主	新民主	進歩保守	交代 R	自由
2002	自由	自由	進歩保守	進歩保守	進歩保守	ケベック	進歩保守	新民主	新民主	進歩保守	自由	交代 R
2003	自由	交代 R	進歩保守	進歩保守	進歩保守	交代 C	交代 L	新民主	新民主	進歩保守	自由	ユーコン
2004	自由	進歩保守	進歩保守	進歩保守	進歩保守	自由	自由	新民主	新民主	進歩保守	自由	ユーコン
2005	自由	進歩保守	進歩保守	進歩保守	進歩保守	自由	自由	新民主	新民主	進歩保守	自由	ユーコン
2006	交代 R	進歩保守	進歩保守	進歩保守	交代 L	自由	自由	新民主	新民主	進歩保守	自由	ユーコン
2007	保守	進歩保守	交代 L	進歩保守	自由	自由	自由	新民主	交代 R	進歩保守	自由	ユーコン
2008	保守	進歩保守	自由	進歩保守	自由	自由	自由	新民主	SAS	進歩保守	自由	ユーコン

（注）R＝少し右，L＝少し左，LL＝左，C＝中道で，政権交代の時に政権の座に就いた政党の政策の性向を示している；ケベック党はケベックの独自性の追求を党是とするが，州の自由党よりも社会民主的な偏向がある．サスカチュワン党とユーコン党は進歩保守党の亜種で，名称を変更した政党である．北西準州とヌナブト準州では政党政治ではない合意政治のため，この表では省略される．選挙データは，http://en.wikipedia.org/wiki/Timeline_of_Canadian_elections より．

NFL　ニューファンドランド＆ラブラドール
PEI　プリンス・エドワード・アイランド
NS　ノバ・スコシア
NB　ニュー・ブランズウィック
SAS　サスカチュワン
BC　ブリティッシュ・コロンビア

4）政策も右寄りで，表 1 において自由党ながらも性格付けで R となっている．

保守側から見ると，まず 84 年に政権を奪うまでに，新民主党に取られたマニトバとケベック党のケベックを例外として，ほぼカナダ全域を占めるに至った[5]．ところが一旦オタワのパーラメント・ヒルに座ると，今度は次々と州を失って行き 93 年には 2 州だけとなっていた．トーリー王国アルバータは問題外として，マニトバはマルローニー時代に取れた例外的な州と言える．しかし，ミーチ・レイク憲法協定の批准過程において，マルローニー連邦首相にとってフィルモン進歩保守党政権は前ポーリー新民主党政権より御し難い存在となったのは皮肉である．

93 年にキャンベルで歴史的大敗を被り政権の座から陥落した進歩保守党は，その後に州レベルで政権を担当する数を増やして行くはずである．やはり，進歩保守党は大西洋岸州 4 つとも制するに至り，当然のように当てにできるアルバータと加えて 5 州まで増やして 06 年の地殻変動につなげた[6]．

表 2 から，どの政党もオタワで政権を取る段階で多くの州政権を獲得しており，政権奪取後にその勢力州を失っていくことが分かる．但し，80 年だけは例外なのは，実はトリュドー自由党は政権を奪ったとは言っても一年前にクラーク進歩保守党に一時的に譲り渡した政権を奪い返しただけで，クラーク短命政権期間には州レベルでの政権移動はなかったためである．

表 2　オタワでの政権交代年での州レベル勢力図

年	政権喪失政党の州数	政権奪取政党の州数
1980	8	0
1984	0	8
1993	3	5
2006	3	6

（注）準州も含む．ユーコン党も保守勢力として数えている．自由党は，政策指向を問わず，冠で分類している．

検証 2　オーストラリアの事例

政党間関係の図式がより単純なオーストラリアでは，83 年にホーク政権が誕生する時に，労働党は長く自由党の総本山とされていたビクトリアも含めて 4 州を制していた．タスマニアがフレーザー時代に自由党に転じているのは例外であるが，その背景にはフランクリン川のダム建設計画があり，州民はフレーザーと組む自由党を強く支持したと言うよりも，環境問題に断固とした政策を取らない州労働党に反発する票が増えたからだと解釈できる．

5）ブリティッシュ・コロンビアの社会信用党は，名称こそ異なるが，保守ブロックに属する．
6）州レベルでは今も進歩保守党であるのに対し，2003 年の保守合同以来，連邦政党は唯の保守党となっている．

予想に違わずに，労働党の長期政権の間に，州レベルの政党色は右傾化する．保守勢力が一度は取ったものの取り返された伝統的な労働党州ニュー・サウス・ウェールズを除いて，96 年の連邦政権交代年までに労働党は他の州全てを奪われている．そして，そのまま労働党に留まったニュー・サウス・ウェールズも含めて，96 年から 07 年までのハワード時代に労働党は次々と他の州も掌中に収めて行き，ラッド労働党がキャンベラで政権に就いた時には完全制覇が成立したのである．そして，徐々に州レベルで労働党の数が減って行くはずだ

表 3　1980～2008 年のオーストラリア連邦・州政権政党の変遷

年	連邦	NSW	VIC	QLD	WA	SA	TAS	NT	ACT
1980	連立	労働	連立	連立	連立	自由	労働	地方自由	
1981	連立	労働	連立	連立	連立	自由	労働	地方自由	
1982	連立	労働	交代 L	連立	連立	交代 L	交代 R	地方自由	
1983	交代 L	労働	労働	国民	交代 L	労働	自由	地方自由	
1984	労働	労働	労働	国民	労働	労働	自由	地方自由	
1985	労働	労働	労働	国民	労働	労働	自由	地方自由	
1986	労働	労働	労働	国民	労働	労働	自由	地方自由	
1987	労働	労働	労働	国民	労働	労働	自由	地方自由	
1988	労働	交代 R	労働	国民	労働	労働	自由	地方自由	
1989	労働	連立	労働	交代 L	労働	労働	交代 L	地方自由	交代 R
1990	労働	連立	労働	労働	労働	労働	労働	地方自由	自由
1991	労働	連立	労働	労働	労働	労働	労働	地方自由	交代 L
1992	労働	連立	交代 R	労働	労働	労働	交代 R	地方自由	労働
1993	労働	連立	連立	労働	交代 R	交代 R	自由	地方自由	労働
1994	労働	連立	連立	労働	連立	自由	自由	地方自由	労働
1995	労働	交代 L	連立	労働	連立	自由	自由	地方自由	交代 R
1996	交代 R	労働	連立	交代 R	連立	自由	自由	地方自由	自由
1997	連立	労働	連立	連立	連立	自由	自由	地方自由	自由
1998	連立	労働	連立	交代 L	連立	自由	交代 L	地方自由	自由
1999	連立	労働	交代 L	労働	連立	自由	労働	地方自由	自由
2000	連立	労働	労働	労働	連立	自由	労働	地方自由	自由
2001	連立	労働	労働	労働	交代 L	自由	労働	交代 L	交代 L
2002	連立	労働	労働	労働	労働	交代 L	労働	労働	労働
2003	連立	労働	労働	労働	労働	労働＊	労働	労働	労働
2004	連立	労働	労働	労働	労働	労働＊	労働	労働	労働
2005	連立	労働	労働	労働	労働	労働＊	労働	労働	労働
2006	連立	労働	労働	労働	労働	労働＊	労働	労働	労働
2007	交代 L	労働	労働	労働	労働	労働＊	労働	労働	労働
2008	労働	労働	労働	労働	交代 R	労働＊	労働	労働	労働

（注）R＝右派，L＝左派で，政権交代の時に政権の座に就いた政党の政策の性向を示している．連立は自由党と国民党のタッグを意味する．＊国民党議員カーリーン・メイワルドが入閣している．選挙データは，http : //en.wikipedia.org/wiki/Elections_in_Australia より．

NSW　ニュー・サウス・ウェールズ
VIC　ビクトリア
QLD　クインズランド
WA　西オーストラリア
SA　南オーストラリア
TAS　タスマニア
NT　北部準州
ACT　首都特別地域

が，まずは西オーストラリアを失っている．

州毎に分析をすると，ビクトリア，西オーストラリア，南オーストラリアの 3 州は全てセオリー通りに政権政党が変遷している．ニュー・サウス・ウェールズはキーティング政権時に左傾化し，クインズランドはホーク時代に一度左傾化した点で，少しずれがある．タスマニアと北部準州は初期に変則的だったけれども，92 年以降は他の州とほぼ同じパターンとなっている．連邦政府のお膝元である首都特別地域では以前は連邦政府が直轄していたが，89 年より地元民自らが議員を選んで政府が議会に責任を負う政治が確立している．第一回，第二回選挙（89, 92 年）ともどの党も安定多数議席を獲得できず，組閣責任者である主席大臣の地位は労働党，自由党，労働党と揺れ動いたが，95 年選挙からキャピタル・ヒルを牛耳っている政党とは逆の政党が普通に勝つようになった．

カナダと同じく表にまとめてみると，オーストラリア連邦においても，連邦議会の野党が次々と州レベルの選挙で成功を収めて行き，徐々に究極の連邦レベルでの大きな変化を準備するといった構造が確認される．右と左の二分法がはっきりしているオーストラリアの方が，近年その傾向がカナダよりも鮮やかに現れていると言えよう．

表 4　キャンベラでの政権交代年での州レベル勢力図

年	政権喪失政党の州数	政権奪取政党の州数
1983	3	4
1996	1	7
2007	0	8

（注）準州，特別地域も含む．

お　わ　り　に

二つの民主主義連邦制の 80 年から 08 年までの政権交代を検証して，マクレガー・ドーソンの政権交代のモデルの妥当性が確かめられた．それも，初期においてはカナダの方に当該パターンが強く見られたのに対して，最近はむしろオーストラリアの方にその傾向が強いことも指摘される．

その理由として，オーストラリアでも連邦レベルの政権が長期化して来たことが挙げられる．オーストラリアの議会の任期は 3 年なのに対してカナダは 5 年で必然的にカナダの方に長期政権が多いはずだが，80 年代から 90 年代にかけての労働党政権，90 年代から今世紀にかけての自由党政権はいずれも 10 年以上となった．連邦首都で長期に渡る政権担当政権に対する不満は，徐々に全国的に支持率を落としていく一方で，まずは州レベルでそれぞれの州民が連邦政権政党とは違う政党を選ぶことに現れる．そして，獲得州数を増やして行った連邦レベルでの野党は，最終的に国の首都での政権の奪取に成功する．

カナダでは同じ政党の連邦・州関係が緩やかだし，政党名が往々にして単なる名称（ノーメンクラチャー）に過ぎないこともドーソン理論のカナダでの適用性を弱めているとも考えられる．第三党の種類が豊富でイデオロギー性が弱いカナダ政治は，中道左派と右派の区分がかなり明瞭なオーストラリア政治よりも投票者を紛らわさせ易く，オタワの政権に対する不満の捌け口が分散する傾向にあることとも関係がある．

（謝辞）ガース・スチーブンソン教授とロドニー・ティフェン教授から御教示を頂きました．感謝の意を表したい．